

東日本の経験を熊本復興に

東日本復興特別委で足立参議院議員 建設業の活躍なくして復興なし

足立敏之参議院議員は14日、参議院の東日本大震災復興特別委員会で、東日本大震災の経験や教訓が、1年前に発生した熊本地震で、どのように生かされたのか質問。特に、熊本の震災復旧工事では「不調・不落が増加



している」と述べ、東日本大震災の復興に対応している復興加速化会議等で打ち出し効果をあげてきた対策や経験を、熊本でどのように生かしているのか、その対策について回答を求めた。

これに対して国土交通省の五道仁実大臣官房技術審議官は、東日本でピーク時に7%あった不調・不落が、今年3月には11%まで低下した背景に、予定価格の割り増しを行う復興部掛・復興係数の導入など各種対策があった点を指摘。熊本で

も今年1月には国・自治体の発注見通しの統合、2月には復興歩掛・復興係数の導入、3月には公共工事設計労務単価の引き上げなどを実施したと回答し、今後もきめ細かく動向を注視して機動的に対応する考えを示した。

また足立議員は、東日本大震災に関する質問で、津波防潮堤や復興道路・復興支援道路の進捗状況、福島第一原発の地下水対策の現状と今後の見通し、中間貯蔵施設の進捗状況などを質問。最

後には今村雅弘復興大臣に、東日本大震災からの復旧・復興に向けての決意を問うた。

これに今村大臣は「生活インフラはほぼ出来あがった。あとは復興道路や防潮堤など、まさに地

域を復興・再生していく牽引力として、さらに充実させなければならぬ」と述べるとともに、現地で頑張っている建設関連産業に敬意を表し感謝の意を伝えた。

足立議員は、本日質問した様々なプロジェクトは「建設産業が、みんな担っている。建設産業の活躍なくして、東北の復興なし」と述べ、国民に理解を求めたていく姿勢を示して締めくくった。